

# 令和7年度 能美市立根上中学校 学校評価（中間）

重点目標 (めざす姿)	具体的な方策	主担当	【評価指標】 <成績指標><努力指標> <満足度指標>	【評価の根拠】 達成度判断基準	取組状況と今後の改善策	評価	学校関係者 評価者 による意見
①教師力を組織的な学校運営を高める	①気づきを大切にし、的確な「報告・連絡・相談」をする。	運営委員会（教頭）	【努力指標】 管理職、校務分掌、学年での「報告・連絡・相談」を密にし、協力して課題解決に対応する。	【教職員アンケート】 ・気づきを大切にし、的確な「報告・連絡・相談」をしている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	肯定的な回答は92.3%と高く、全体的に適切な報連相ができる。チャットを活用したりリアルタイムの情報共有など、校務DXを推進が効果を挙げている。学年の日常的な打ち合わせから職員会議まで、資料の電子化が進んでいる。共同編集を活用することで、話し合いながら、決定事項や変更などの調整を行っていることも有効である。ただし、職員会議では議案量に見合った時間の確保が難しく、十分な議論が持てない案件があることが課題である。事前の資料読み込みや効率的な会議の持ち方を検討する。	A	教職員が課題解決に向けた報告・相談を密に行い、長年の課題であった残業時間の削減にも成果が見られる点は高く評価できる。特に、DXの活用がコミュニケーションの効率化に繋がり、自己指導能力という抽象的な概念が共通認識として共有されたことは素晴らしい進歩である。一方で、月80時間を超える教職員が存在する現状は重要な課題であり、その原因を詳細に調査し、個別の改善策や業務分担の見直しを早急に行わなければならないと考える。また、自己指導能力の育成に関する議論の場は、今後も継続して設けていくことが必要である。
	②働き方の見直しを進める。	運営委員会（教頭）	【努力指標】 月2回以上の定時退校を設定、業務の平準化、平日部活動の時間短縮等に取り組み、時間外勤務時間を短縮する。	【時間外勤務時間調査】 ・時間外勤務時間が月80時間を超えないように勤務している。 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 70%以上	職員の時間外勤務削減の意識は概ね高く、早く帰ることを心掛けている。4月の時間外勤務80時間超えの方は昨年よりも減少している(R6・6名→R7・4名)。ただし、各業務の主担当の方などの帰宅が遅くなる傾向が依然として見られるため、今後も継続して業務改善に努める必要がある。 <月80時間を超えない職員> 一学期 88.5% <時間外勤務80時間以上> 4月(4名)、5月(4名)、6月(2名)、7月(2名)	B	認識として共有されたことは素晴らしい進歩である。一方で、月80時間を超える教職員が存在する現状は重要な課題であり、その原因を詳細に調査し、個別の改善策や業務分担の見直しを早急に行わなければならないと考える。
	③生徒の「自己指導能力」を育む。	生徒指導（泉）	【努力指標】 生徒指導の4つの視点を意識した実践を重ね、「自己指導能力」の育成を目指す。	【教職員アンケート】 ・生徒指導の4つの視点を意識し、「自己指導能力」を育むことができた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	年度当初に校内研修会を行い、具体的な自己指導能力の獲得について検討した。そのことが肯定的な回答につながったと考える。「そう思う」が42.3%、「どちらかと言えばそう思う」が50%だった。昨年度、12月にかけて肯定的回答が減少した。その対策として、夏季休業中に再度校内研修を行い、2学期以降に向けた自己指導能力の育成を検討する場を設けた。	A	自己指導能力の育成に関する議論の場は、今後も継続して設けていくことが必要である。
②自ら進んで知り学ぶ生徒	①生徒が主体的に課題解決に向かえるようにする。	研究（齊田）	【満足度指標】 課題解決の目的を明示したり、生徒が教科の見方・考え方を働きかせることができるように指示を明確にしたり、生徒の考え方や学習状況を参考できるようこしたりすることを通じて、生徒が試行錯誤して学ぶことができる授業準備を行う。	【生徒アンケート】 ・授業では、学習課題や学習の目的をつかみ、いろいろな方法や視点から試行錯誤して課題解決に向かうことができた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 ・授業では、生徒が試行錯誤して学ぶことができるよう、学習の目的を明示したり、見方・考え方を働くよう指示を明確にしたり、GIGA環境を活用して簡潔に指示・説明している。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	肯定的な回答の割合は生徒では87.7%、教師では84.6%で、同程度であった。しかしながら、最も肯定的な回答の割合は生徒が30.8%、教師が53.8%で、教師が思っているほど十分に、生徒に学習の目的や課題解決の見通しが伝わっていない可能性が示唆された。学習の目的を生徒と教師が共有することは、生徒が見方・考え方を働きかせながら主体的に課題解決していく授業をつくり上げ上で、とても重要である。GIGA環境を有効活用しながら、効果的な学習課題の提示方法や簡潔な説明が可能となるよう、引き続き教科ごとに研鑽を深めていく。	B	生徒と教師が共に肯定的な回答を示していることから、GIGAスクール構想で整備されたChromebook環境が、生徒の主体的な学びと満足度向上に貢献していることが明らかである。これは、生徒をよく観察し、アンケート結果を綿密に分析した上で具体的な取り組みの成果であり、高く評価されるべき点である。しかしながら、生徒と教師の肯定的な回答には乖離が見られるため、今後の課題として、学習の目的や見通しを共有し、両者の認識を一致させていくことが重要である。現状は「B」評価ではあるものの、今後の具体的な改善に向けた動きが示されており、これからは学校の取り組みに期待する。GIGA環境を最大限に活用し、引き続き授業改善を進めていく必要がある。
	②個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実にさせる。	研究（齊田）	【満足度指標】 生徒に自分の考えを表させ、育成すべき資質・能力に沿って生徒の学習状況を見取ることを通じて、具体的な支援を行い、目標達成につなげる。	【生徒アンケート】 ・授業では、Chromebookのアプリやクラウドを効果的に活用して、友達と意見を交流したり、先生からアドバイスをもらったりしながら、課題解決しようとすることができた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 ・GIGA環境を活用して、生徒の学習状況を見取り、生徒と生徒をつなげたり、個別に支援したりしている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	肯定的な回答の割合は生徒では94.3%、教師では73.1%で、大きな差が生じる結果となった。生徒の方が、このアンケート項目に対する満足度が高く、GIGA環境を効果的に活用して、目標達成につなげることができていると考えられる。一方、教師にとっては、一人一人の生徒の学習状況を見取りながら、支援をしていくことにやや不安感や抵抗感を抱いている可能性が示唆された。生徒の思考をGIGA環境を活用して見える化することは、生徒の学習状況を適切に見取っていくことにつながり、学習評価や授業改善の視点にもなるため、学校研究の主要なテーマとして研究を深めていく。	B	生徒と教師の肯定的な回答には乖離が見られるため、今後の課題として、学習の目的や見通しを共有し、両者の認識を一致させていくことが重要である。現状は「B」評価ではあるものの、今後の具体的な改善に向けた動きが示されており、これからは学校の取り組みに期待する。GIGA環境を最大限に活用し、引き続き授業改善を進めていく必要がある。
	③視点を明確にしてアウトプットさせる。	研究（齊田）	【満足度指標】 学習課題と整合した適切な形でのまとめ、本時の学びに合った振り返りを通じて、必要な情報を抽出して考えを形成する力を育む。	【生徒アンケート】 ・授業では、課題に合うような形で、本時の学びをまとめたり、振り返ったりすることができた。(授業での学びを生かして、自分の考えを表現したり、作品をつくりたりすることができた。) A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 ・授業の終末部分で、生徒が課題に合った適切なまとめ、振り返りができる手立てをしたり、生徒の振り返りの記述内容を授業改善に活かしたりしている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	肯定的な回答の割合は生徒では91.9%、教師では84.6%と、一見すると高い満足度のように見えるが、最も肯定的な回答の割合は生徒では43.1%、教師では30.8%となっており、やや低調な結果となっている。授業の終末では、じっくりと本時の学びを言語化する時間を確保するために、GIGA環境を効果的に活用していく。教師の説明の時間を短縮したり、本時の思考の方向性を生徒がいつでも参考したりすることで、本時の課題に合ったまとめや振り返りができるよう、引き続き取り組みを継続していく。	B	生徒が多様な意見を尊重し、自分の意見を持つ力を育んでいること、そして地域行事や体験活動を通じて郷土愛や地域理解を深めている点が特に高く評価できる。いじめ問題については、昨年度に比べ認知件数が減少している点は評価できるが、解消件数の割合が変わらないことが懸念される。学校が情報を適切に共有する風土を築くことによって実現していることは理解しつつも、いじめの早期発見・解決のため、これまでのアンケートや個人面談、さらには子どもたちからの情報提供ツールを構築し、未然防止に努めることを強く望む。また、興味深い点として、1・2年と比べて、3年生の約半数が「根上中の良いところを知らない」と回答したことが挙げられる。進路や受験による多忙感もあるとは思うが、3年生特有的心理状態を考慮した上で、学校生活の終盤に改めて学校の魅力を再認識できるような機会を設けることが重要ではないかと考える。
④明るく素直に振る舞う生徒	①生徒指導・教育相談を充実する。	生徒指導（泉）	【努力指標】【成果指標】 生徒指導や教育相談を充実させることで、年間の事案件数を減らす。	【生徒指導データ】 ・生徒指導事案(暴力・いじめ等)の発見と解決。 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 70%以上 【教育相談データ】 ・新たな不登校及び不登校傾向の生徒をつくらない。	【暴力認知件数8件】 【いじめ認知件数6件、うち解消1件　解消確認まで3ヶ月を要するため】 週1回の管理職と生徒指導担当者間での情報交換と教育相談会を通して、各学年及び個々の生徒の状況について、情報を共有し、今後の対応策や、トラブルを未然に防止するための方策などについて、話し合っている。また、chromebookを使っての月1回のいじめアンケート、個人面談も引き続き継続し、トラブルの未然防止につなげていきたい。	B	生徒が多様な意見を尊重し、自分の意見を持つ力を育んでいること、そして地域行事や体験活動を通じて郷土愛や地域理解を深めている点が特に高く評価できる。いじめ問題については、昨年度に比べ認知件数が減少している点は評価できるが、解消件数の割合が変わらないことが懸念される。学校が情報を適切に共有する風土を築くことによって実現していることは理解しつつも、いじめの早期発見・解決のため、これまでのアンケートや個人面談、さらには子どもたちからの情報提供ツールを構築し、未然防止に努めることを強く望む。また、興味深い点として、1・2年と比べて、3年生の約半数が「根上中の良いところを知らない」と回答したことが挙げられる。進路や受験による多忙感もあるとは思うが、3年生特有的心理状態を考慮した上で、学校生活の終盤に改めて学校の魅力を再認識できるような機会を設けることが重要ではないかと考える。
	②特別の教科道徳において、道徳的価値について考えを深める。	教務・研究（西田千）	【努力指標】 生徒が、効果的な振り返りを通して、道徳的価値についての自身の考え方の深まりを実感できるようにする。	【教職員アンケート】 ・ねらいとする価値にせまるために、多面的・多角的な見方ができるよう授業展開の工夫に努めている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【生徒アンケート】 ・道徳の授業では、友達との話し合いなどを通じて、課題について自分の考え方を深めることができた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【教92.2 生94.3】 教職員アンケートに関しては、肯定的な回答が高いが、最も肯定的な回答の割合が昨年12月と比べ若干下がっている。教科書も新しくなり、新しい教材もいつもも入っていることからより一層教材研究を行い、ねらいとする価値に迫ることのできるよう授業展開への工夫が必要である。 生徒アンケートに関しては最も肯定的な回答は少し下がったものの肯定的な回答は上がっている。生徒は話し合いなどを通じて課題について自分の考え方を深めることができたようである。今後も、話し合いなどを通じて多面的・多角的な見方ができ、生徒の考え方を深める授業を考えていきたい。	A	生徒が多様な意見を尊重し、自分の意見を持つ力を育んでいること、そして郷土愛や地域理解を深めている点が特に高く評価できる。いじめ問題については、昨年度に比べ認知件数が減少している点は評価できるが、解消件数の割合が変わらないことが懸念される。学校が情報を適切に共有する風土を築くことによって実現していることは理解しつつも、いじめの早期発見・解決のため、これまでのアンケートや個人面談、さらには子どもたちからの情報提供ツールを構築し、未然防止に努めることを強く望む。また、興味深い点として、1・2年と比べて、3年生の約半数が「根上中の良いところを知らない」と回答したことが挙げられる。進路や受験による多忙感もあるとは思うが、3年生特有的心理状態を考慮した上で、学校生活の終盤に改めて学校の魅力を再認識できるような機会を設けることが重要ではないかと考える。
	③郷土を愛する心を育成する。	教務・研究（本川）	【満足度指標】 地域と連携したキャリア教育やふるさと教育を計画的・効果的に実践する。	【教職員アンケート】 ・総合的な学習の時間等を活用し、生徒のキャリア発達を促したり、郷土を愛する心を育成したりする。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【生徒アンケート】 ・「能美市・根上中の良いところを知っている」の結果 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【教88.4%】【生:根87.2%】【生:能75.8%】 教職員アンケートの「総合的な学習」に関する回答は、肯定的な回答が高いため、今後も総合的な学習の時間等を中心に、地域と連携しながら、能美市の環境や企業について調べたり、実際に体験したりすることを通して、能美市の魅力を見つけ、郷土を愛する心を育成する機会としている。	B	生徒が多様な意見を尊重し、自分の意見を持つ力を育んでいること、そして郷土愛や地域理解を深めている点が特に高く評価できる。いじめ問題については、昨年度に比べ認知件数が減少している点は評価できるが、解消件数の割合が変わらないことが懸念される。学校が情報を適切に共有する風土を築くことによって実現していることは理解しつつも、いじめの早期発見・解決のため、これまでのアンケートや個人面談、さらには子どもたちからの情報提供ツールを構築し、未然防止に努めることを強く望む。また、興味深い点として、1・2年と比べて、3年生の約半数が「根上中の良いところを知らない」と回答したことが挙げられる。進路や受験による多忙感もあるとは思うが、3年生特有的心理状態を考慮した上で、学校生活の終盤に改めて学校の魅力を再認識できるような機会を設けることが重要ではないかと考える。
⑤強い身体をもつ生徒	①基礎体力を向上させる。	保健体育（泉）	【努力指標】 教科体育の充実や適正な部活動運営を通して、基礎体力の向上を図る。	【体力テスト】 ・2・3年生の体力テストにおいて、総合評価のA、Bが占める割合 A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	【体力テスト 42.9%】 全国との比較では、32項目中11項目は平均を上回っていた。残りの21項目の向上が求められる。握力、上体起こし、50m走で全学年男女全国平均を下回る結果となっている。各項目をいかに高めてくのが課題となってしまおり、保健体育の授業の中で、向上に向けたトレーニングを実施していく。	C	体力向上に関して、取り組みへの工夫が今後さらに必要である。安易に体力低下と判断せず、保健体育の授業だけでなく、休み時間や帰宅後にも行えるよう指導していくことが求められる。また、健康的な生活習慣の形成も分掌の重要な課題である。朝食を食べていない理由を「食べないので」と回答した生徒は86%が「そう思う」と答えており、家庭での習慣が比較的安定していることが分かる。一方、2・3年生は「そう思う」の割合が若干下がっている。教科書も新しくなり、新しい教材もいつもも入っていることからより一層教材研究を行い、ねらいとする価値に迫ることのできるよう授業展開への工夫が必要である。
	②健康教育を充実させる。	保健環境（四間丁）	【満足度指標】 「睡眠」と「朝ごはん」を基盤として、歯科検診や眼科検診の結果を含め、生徒が年間を通して生活改善を意識できるようにする。	【生徒アンケート】 ・「毎日朝食を食べている」ができている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 ・「睡眠時間の確保」ができている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【保健調査】 ・歯科検診、眼科検診後の受診状況 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【朝食 94%】【睡眠 79.8%】【受診 ○%:2学期に集計予定】 「毎日朝食を食べている」と回答した生徒は前年度とほぼ同水準を維持している。特に1年生は86%が「そう思う」と答えており、家庭での習慣が比較的安定していることが分かる。一方、2・3年生は「そう思う」の割合が若干下がっている。年次で見ると、昨年度は下回る達成率Cの値になっていた。今後も総合的な学習の時間を中心として、地域と連携しながら、能美市の環境や企業について調べたり、実際に体験したりすることを通して、能美市の魅力を見つけ、郷土を愛する心を育成する機会としている。	B	体力向上に関して、取り組みへの工夫が今後さらに必要である。安易に体力低下と判断せず、保健体育の授業だけでなく、休み時間や帰宅後にも行えるよう指導していくことが求められる。また、健康的な生活習慣の形成も分掌の重要な課題である。朝食を食べていない理由を「食べないので」と回答した生徒は86%が「そう思う」と答えており、家庭での習慣が比較的安定していることが分かる。一方、2・3年生は「そう思う」の割合が若干下がっている。教科書も新しくなり、新しい教材もいつもも入っていることからより一層睡眠時間が不十分になりやすくなることが推測される。全体として朝食習慣は定着している一方で、睡眠の確保には学年差が大きく、改善の余地が残されている。以上のことから、今後は引き続き朝食習慣を維持しつつ、特に上級生を中心にして適切な睡眠時間の確保を促す指導を強化していく必要がある。
(コ)家庭・地域・クールの連携の推進	①学校運営協議会を充実させる。	教務（辻）	【満足度指標】 学校運営協議会を中心に、コミュニケーションスクール(CS)としての機能を推進し、家庭・地域との連携を強化する。	【保護者アンケート】 ・学校・保護者・地域がつながり合って、生徒の成長を支えていると感じる(コミュニケーションスクールとの連携等)。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 ・学校運営協議会での話し合いを中心に、保護者や地域からの意見を、日々の教育に生かしている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【保59.1%】【教88.5%】 昨年度と比べて、保護者・教職員ともに肯定的な回答の割合が向上した。ホームページの充実や学校行事におけるCSの協力、教職員間での学校評価・学校運営協議会・コミュニケーションスクールに関する情報共有等が効果的にはたらいていると考えられる。引き続き、学校運営協議会で「サポート名簿」を作成し、日々の教育活動や行事等において、ニーズを明確にしていく。そして、働き方改革を更に推進し、教師が生徒と向き合う時間確保を促すために、学校運営協議会を通じて、あらゆる場面においてサポートしていただけるよう、体制の整備を継続していく。	C	学校教育活動に対する家庭・地域の理解を深めるため、学校運営協議会やコミュニケーションスクールの存在を周知し、積極的な情報発信を継続する必要がある。また、地域との連携を強化するため、生徒や学校関係者が町内会行事などに参加したり、学校運営協議会に事業者枠を設け、能美市商工会から選出するなど、相互に協力し合う仕組みづくり等も一つの方法であると考える。
	②積極的な情報公開と社会貢献を展開する。	教務（辻）	【成果指標】 ホームページ等での情報発信につとめ、学校教育活動に対する家庭・地域からの理解を深められるようにする。 【努力指標】 学校教育活動全体を通して、社会に奉仕しようとする態度を育成する。	【保護者アンケート】 ・生徒の学校での活動の様子を知るために、学校ホームページを定期的に閲覧している。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【生徒アンケート】 ・「そうじをしている」「あいさつができる」「係活動に取り組んでいる」の結果。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【保40.4%】【生:掃95.2%、係94.3%、挨88.6%】 「社会奉仕」という視点では、昨年度に引き続き、肯定的な回答の割合が高い。さらに取組の質を向上させていくことができるよう、生徒会執行部や各生徒部会を中心として、継続して仕掛けしていく		